

第4学年 学級活動（2）指導案

令和 年 月 日（ ） 校時
4年 名
指導者

1 題材「気持ちの良いあいさつをしよう」 ア 基本的な生活習慣の育成

2 題材について

(1)児童の実態

本学級の児童は、自分のすべき課題や仕事に一生懸命に取り組む、素直で真面目な子が多い。また、進んで人の役に立とうとしたり周りへの配慮や気遣いをしたりできる。その一方で、自分の思っていることを言葉で適切に表現できない、状況判断が上手にできない、感情が抑えられないことなどから友達同士トラブルになってしまうこともよくある。本年度、「笑顔いっぱい助け合いのすてきな4年生！」という学級目標を子どもたちと話し合って決めた。

これまで、学級活動(1)として、「係を決めよう」「1学期がんばったね会をしよう」「ハロウィンパーティーをしよう」などを議題として話し合い活動を行った。前学年までの経験を踏まえて教師の支援を受けながら司会や黒板記録、自分の意見をもち理由をつけて話すことができている。また、学級活動(2)では、一人一人が自分の問題と捉えて、話し合いを通じて個人の目標や具体的な方法、内容を自己決定・実践してきている。これまでに、「自主学習」を題材に取り組んできた。児童は、学級活動を通じて、集団として「話し合い、決定し、実行する」経験を積み重ねてきている。

一方では、自分に自信がなく、一人になると人前に立って声を出したりクラス全体を引っ張って動いたりすることが苦手な子も多い。あいさつに関しても、元気よく進んでできているとはいえず、交通指導に立ってくださっている方へのあいさつなど、決まったあいさつはできるが、一人一人のあいさつは個々に課題がある。

(2)題材設定の理由

今回題材となるのは、「みんなが気持ちの良いあいさつの実践」である。児童アンケートの結果や教師・保護者の評価からも、本校の子どもたちは「あいさつ」に積極的でない現状がある。また、日常的な地域の人へのあいさつも十分ではない。子どもたち自身も課題意識をもち、あらゆる場面で目標に掲げつつも、十分に改善できずにいる。あいさつが大切であることは理解しているが、声が小さかったり自分からできなかつたりする子が多い。上学年の仲間入りをした本学級の児童にも、よりよい生活や人間関係を築いていく上で「あいさつ」が重要であることを押さえつつ、「気持ちの良いあいさつ」の実践意欲をもたせ、一人一人が具体的なめあてや方法を考えていく機会が必要である。

そこで、「みんなが気持ちの良いあいさつ」の仕方を考えて、進んで元気よくあいさつする態度を身に付けてほしいと考え、今回の題材「気持ちの良いあいさつをしよう」を設定した。

(3)指導にあたって

① 自分の生活の問題に気付く活動（事前の活動）

「あいさつ」に関するアンケートを実施したり、あいさつの様子を動画に撮ったりすることで、自分たちのあいさつの仕方に関心をもたせた。さらに、教師や保護者の思いも合わせて伝えた。

② 集団思考を生かして、個人目標を自己決定する活動（本時の活動）

はじめに、アンケート結果や自分たちのあいさつの様子を撮影した動画から、自分たちの課題をもたせる。
(つかむ)

次に、つかんだ課題から気持ちの良いあいさつができない原因を話し合い、あいさつを見直して改善する必要があるという意識を高めたい。
(さぐる)

そして、気持ちの良いあいさつについて話し合い、考えた方法を実際にロールプレイで体験する。あいさつをした側とされた側の感想を交流し、あいさつの効果についても実感させたい。
(見つける)

最後に、個々に具体的なめあてや実践方法を決定させる。その際、具体的な数値や場面設定を目標に入れさせたい。
(決める)

③ 目標実現のために日常活動（事後の活動）

自分の目標を達成できるよう、日常生活で「気持ちの良いあいさつ」を実践していく。その際、毎朝、自分のあいさつについて振り返る機会を設け、ワークシートに記入させたりどのように変わったのかを話し合わせたりする。また、事後のあいさつの様子を動画で撮影し、変容を実感させたい。

3 活動の流れと指導助言・評価規準

	活動内容	時間	指導上の留意点	評価規準
事前の活動	あいさつアンケートへの回答やあいさつする様子の動画を撮影するなかで、自分たちのあいさつの仕方を振り返る。	朝の活動 帰りの会	アンケートへの回答や動画を撮影することで、自分のあいさつの仕方に関心をもたせる。	・あいさつに関する自己の生活を進んで振り返ろうとしている。 (主体的態度)
本時	「気持ちの良いあいさつをしよう」	学級活動(2) ア	本時の活動に記載	
事後の活動	自分の立てた目標や取組について振り返る。	常時活動 朝の会	朝の会で振り返ったり実際の様子(動画)を見比べたりして、変容を実感させる。	・よりよいあいさつの仕方や習慣について、自分に合った目標を考え、実践している。 (思考・判断・表現)

4 本時の活動

(1) ねらい

自分のあいさつを振り返るなかで、自分たちの実態に気づき、「みんなが気持ちの良いあいさつ」の仕方について考え、実践していこうとする態度を育てる。

(2) 展開

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 アンケート結果や自分たちのあいさつをする姿を見て、気付いたことを話し合う。 (つかむ)	・「あいさつアンケート」の結果や児童のあいさつの様子を撮影した動画を提示し、意識や実態を捉えさせる。	
「みんなが気持ちの良いあいさつ」をするためにどうしたらよいか考えよう		
2 気持ちの良いあいさつができない原因について考える。 (さぐる) ・あいさつができない理由やその時の気持ちを考え、ワークシートに書く。	・振り返りの観点を提示し、あいさつができない理由や気持ちを整理して捉えさせる。 ・あいさつをすることに抵抗がある子に対して共感する姿勢がもてるように声かけをする。	
3 気持ちの良いあいさつをする方法を考える。 (見つける) ・動画を見て、気持ちの良いあいさつの仕方について知る。 ・どうすれば「気持ちの良いあいさつ」になるのかを話し合い、ホワイトボードにまとめる。	・良い手本となる先輩のあいさつ動画を流す。 ・自分たちが意識できてないポイントにも気づけるようにさせる。 ・気持ちの良いあいさつとなるための観点を助言する。 (観点…言葉づかい・表情・動作)	・どのような態度や方法であれば「気持ちの良いあいさつ」になるのか理解している。 (知識・技能) 〈観察・ワークシート〉
4 あいさつの仕方を押さえた上で実演する。 ・ロールプレイを通じて、「気持ちの良いあいさつ」を体験し、感想を話し合う。	・相手の良かった所、された時の気持ちを伝えさせる。	
5 自分に合った態度やあいさつの方法を決定する。 (決める)	・話し合いの結果を参考に、自分の課題に合った具体的な目標になるよう、助言する。	・自分の課題に合った具体的な目標を決めている。 (思考・判断・表現) 〈観察・ワークシート〉